



睡眠姦の話のCG集。

基本CG10枚  
差分13枚

jm

# 睡眠姦の話。



俺はとある学校の学生だ。俺には  
気になる同級生がいる。何としてもその女性を  
抱きたいと考えている。そのために、



「ねえ、〇〇さん、今日も俺に勉強教えてもらってもいい？」  
「うん、いいよ。」  
彼女は〇〇さん。地味で目立たないけど、とてもいやらしい体つきをしている。俺は今日、彼女を眠らせてその間にこの体に  
むしゃぶりつくつもりだ。





はあ、はあ、。○○さん、本当にいやらしい体をしてるな、。  
制服の上からでもわかる、。  
早く犯したい、。





そして、俺は〇〇さんの家で勉強を教えてもらった。  
「〇〇さん、今日はありがとう。これで今回のテストもばっちりだよ。」  
「ううん。これだけできるんだったら別に私が教える必要もなかったんじゃない？」  
「いやいや、そんなことないって。」  
そうやって話し込んでいる間に、俺は〇〇さんの飲み物に睡眠薬をこっそりと混入させた、。





しばらくすると○○さんは「ぐくりぐくり」と体を揺らすようになった。どうやら効いてきたようだ。○○さん「○○さんどうしたの？眠いの？」  
「うん、ちよと。」  
その後、ちよと横になるから帰っていいよと言われたが、その直後に○○さんは深い眠りに落ちた。







○○さんはベッドに横たわってぐっすりと眠っているようだった。  
「すう、すう、。」  
「おい、○○さん。本当に眠っちゃったの?」  
返事がない。どうやら本当に眠ってしまったようだ。  
これから、俺は○○さんの体を犯すことにした。





「はあ、はあ、。こ、これが○○さんの、。」  
俺は○○さんの衣服を脱がすと、その大きな胸を  
揉みじだいた。とても弾力があって、やわらかい胸  
だった。  
「はあ、はあ、。○○さんの胸、す、いい、  
やわらかくて気持ちいい、。」  
俺はひたすら○○さんの胸を揉み続けた、。



「んぐっ♡ん」っ♡んぐっ♡」  
「あ、ああ、！○○さんが俺のモノを啜え込んでる、！」  
俺は○○さんの口を開けさせると、そのまま俺のモノを  
入れて啜え込ませた、。そして、○○さんの口を  
アソコのように打ち付けて犯した。  
「んっ♡んぐっ♡んぐっ♡」  
「ああ、！○○さんの口の中、気持ちいい！で、出る……！」







そして、いよいよ挿入……。  
「はあ、はあ、ねえ、○○さん。俺のモノが○○さんの  
アソコに当たってるよ。ねえ、入れてもいい？  
ほら、返事しないと入れちゃうよ。」  
当然返事などあるわけもなく。俺はそのまま  
○○さんのアソコに挿入した……。  
○○さん





「あ、♡ん、♡は、♡」  
「はあ、はあ、○○さんのアソコ、気持ちいい!!  
もっと使わせて!!」  
俺はひたすら○○さんのアソコめがけて俺のモノを  
打ち付け続けた。そして、  
「ああ、で、出る!!!」







「はあ、はあ。○○さん「めん。こんな」  
たくさんだしちやつたよ。」  
あまりに気持ちよかったせいで、俺は○○さんの  
アソコの中に何度も射精してしまっただ。」  
「はあ、はあ。またしようね。○○さん。」  
そうして、俺は○○さんの姿を回事もなかったように  
もとに戻してその場を去った。」



この度は当作品をご購入くださり、ありがとうございます。

睡眠姦の話です。100円タイプの作品です。同時に公開された作品の  
関連作品となります。合わせて6作品を公開予定です。s

睡眠姦関連作品(公開予定含)  
ep  
eq  
er  
es  
ji  
jj  
j05  
jl  
jm  
jn

当サークルホームページ等専用のページを開設致しました。  
これらにおいても創作活動を行っておりますので、  
よろしければご確認ください。

Blog:<https://sssss.fc2.xxx/>

Pixiv:<https://www.pixiv.net/users/46460147>

Ci-en:<https://ci-en.net/creator/4749>

Fantia:<https://fantia.jp/fanclubs/27877>

※当サークルの作品は全てフィクションです。実際に行うと法律によって処罰される可能性があります。

※当サークルの全作品の無断転載(購入されてない方が閲覧できるようにする)  
等の行為はご遠慮願います。ご協力の程、よろしくお願いします。